

夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議 議事要旨

会議名	第 4 期夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議（第 4 回）
日時	令和 4 年 5 月 12 日(木) 18 時 30 分～20 時 20 分
出席	山中ゆう子、米原立将、安部芳絵、原由希、井村良英、千頭和正巳、田中光晴、黒田淑美、田口美幸、平野静香、小松佳世子、坂下香澄、園田智恵、佐藤米子、伊東祐也、石田千紘、伊藤梓、大河原鳳臥、松村咲 [事務局] 矢ノロ子ども家庭部長、五箇野子育て推進課長、平川、高野
欠席	段城孝彦、小畑くるみ、畔田世紀子、栗原一雄、鈴木正明、筒井夢人、松本零、葛野智哉
配布資料	夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議委員名簿 夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議（第 3 回）議事録 立川市子どもの自己肯定感などに関する調査報告書概要版（案） 令和 4 年度の夢たち推進会議について 「こどもとおとなのはなしあい in 市議会議場」企画書
会議場所	立川市役所 302 会議室

（開催に先立ち、事務局より人事異動の報告）

1. 辞令交付

- | | |
|---------------------|--------------|
| (1) 立川市立中学校校長会 | 立川第八中学校千頭和校長 |
| (2) 立川市立小学校長会 | 第一小学校田中校長 |
| (3) 青少年健全育成地区委員長連絡会 | 佐藤委員 |

2. 立川市子どもの自己肯定感などに関する調査報告書について

(1) 前回推進会議に続き、委員の感想・意見

- ・ 夢育て・たちかわ子ども 21 プランを知って、大人も子どもも一緒に考えていくことが大事である。
- ・ 学校や地域と一緒に活動していくなど、ひとつひとつの積み重ねが自己肯定感の向上につながっていく。コロナ禍の時期の調査であったので、厳しい数字が出ると認識。
- ・ 3 年前に東京都の学習指導要領の改訂があり、総則に自分の可能性や良さを見いだす、その後、他者の素晴らしさに目を向けることで持続可能な社会の作り手となることがうたわれている。今回の調査は、そういった内容とリンクしていると感じる。学校でも他社との相対的な位置を自分が見つめられるような力をつけていくことが必要。
- ・ 家庭的保育室では、0、1、2 歳児を預かっている。上の年齢の子がお兄ちゃんやお姉ちゃんを真似て、下の年齢の子に優しくするなどの様子が見られる。
- ・ 地域福祉コーディネーターとして、地域の居場所づくりを手伝っている。そこで接する子どもたちを見ていると、地域の大人たちから褒められたり認められたりすることで表情が変わったり、生き生きした様子を見ることができる。こうしたことが、自己肯定感の向上につながるので、関係機関との連携を進められればと思っている。
- ・ 子どもたちは、自分が答えたアンケートがこのような資料になっていることを知らないと思う。自由記述が活字になって見ることができると、関心が広がると思う。概要版か

ら子どもたちがアクセスしやすい取り組みを希望する。

- ・ 都内最大級の中高生のための I T プログラム教育サービスがある。その会社の目標は、自己効力感を上げることとなっている。市が調査を行う目的について、改めて聞きたい。事務局からは、プランを推進するにあたって子どもの権利の尊重が大切と考えており、そこを今の子どもたちがどうとらえているのか見るために行っていると回答。
- ・ 自己効力感というのは、自分だったらうまくやれるという自信である。その自信を持つためには小さな成功体験が必要。
- ・ 子ども委員へ、①コロナ禍でさまざまな活動の制限があるなかで、子どもたちが成功体験をどのように得ているのか、②地域でどんな活動の場があるといいかを聞く。子ども委員からは、①コロナ禍で成功体験を得るための場所がなくなったと思っている、②中高生は学校の中で収まりがちなので、学校外での活動や普段と違う人と関わり、誰かの役に立つ経験があるといいとの意見。
- ・ 学校の先生が課外活動にすべてかかわることが難しくなっている。学校ばかりに求めず、それぞれにできることをやっていける立川市になるといい。
- ・ 部活動の指導について、文科省が令和 5 年度から地域移行を行う方針を発表した。今後、学校と地域のネットワークが連携を深まるといい。
- ・ 新生小では、P T A 主催の行事で地域も協力する、八中から生徒がボランティアとして来てくれるなど、地域との連携ができています。学校側の協力が大きい。
- ・ たまがわ・みらいパークでは、小中学生が協力し合う気風があり、ボランティアが活発な地域であり、ボランティアを通じて成功体験を得られている。
- ・ 医療現場で子どもたちと接している際に意識していることは、小さな言葉かけ。他者との比較は避けられないが、ほめたり感謝することの積み重ねが大切。
- ・ 障害のある子どもを持っており、普通のお子さんだとできて当たり前なことをほめてきた。その積み重ねで自己肯定感を上げていくことができ、社会人として働いている。家庭内でできることはある。
- ・ 子どもの居場所の観点からの意見。チャイルドラインでは何でも聞いて、子どもたちの気持ちに寄り添うことをしているので、そういう大人が社会に増えるといい。放課後子ども教室ではかつて利用していた子どもが高校生になって手伝いに来ている例を挙げ、地域の子どもの地域で支えることが大切。

(2) 概要版について

- ・ 事務局から原案を示し、相談機関の紹介を見やすくする等の意見を反映して、次回以降提示することとなった。

2. 今年度の推進会議のスケジュールについて

- ・ 事務局から提言書作成までのスケジュール案とグループワークの進め方を提示。12 月提言書に向けて、4 つのグループに分かれて 3 回のグループワーク、その後提言書の検討を行う。スケジュール案については了承、グループ分けについては、子どもの声や意見表明を尊重する考えを共通テーマにして再構成する。
- ・ 4 つのグループについては、プランの施策を念頭に作成している。プランには 142 の事業があるが個別に検討は難しいので、必要に応じてヒアリング等で対応したい。

3. その他

(1) 委員からの報告

- ・ たまがわ・みらいパークよあり、5月15日の午前10時から11時まで朝市開催。
- ・ 6月13日から17日まで、立川市役所多目的プラザでたまみらキャラバン隊開催。テーマは、緑とSDGs∞（無限大）。新生小の3年生による廃材を使った風車等を展示。

(2) 次回会議

- ・ 次回7月13日午後6時30分より30②会議室にて。次回までに、グループワークの意向調査を行うのでご協力願いたい。

(3) 「こどもとおとなのはなしあいin市議会議場」の開催について

- ・ 9月4日の午前10時より市議会議場で開催。推進会議からも聞き手として出席願いたい。